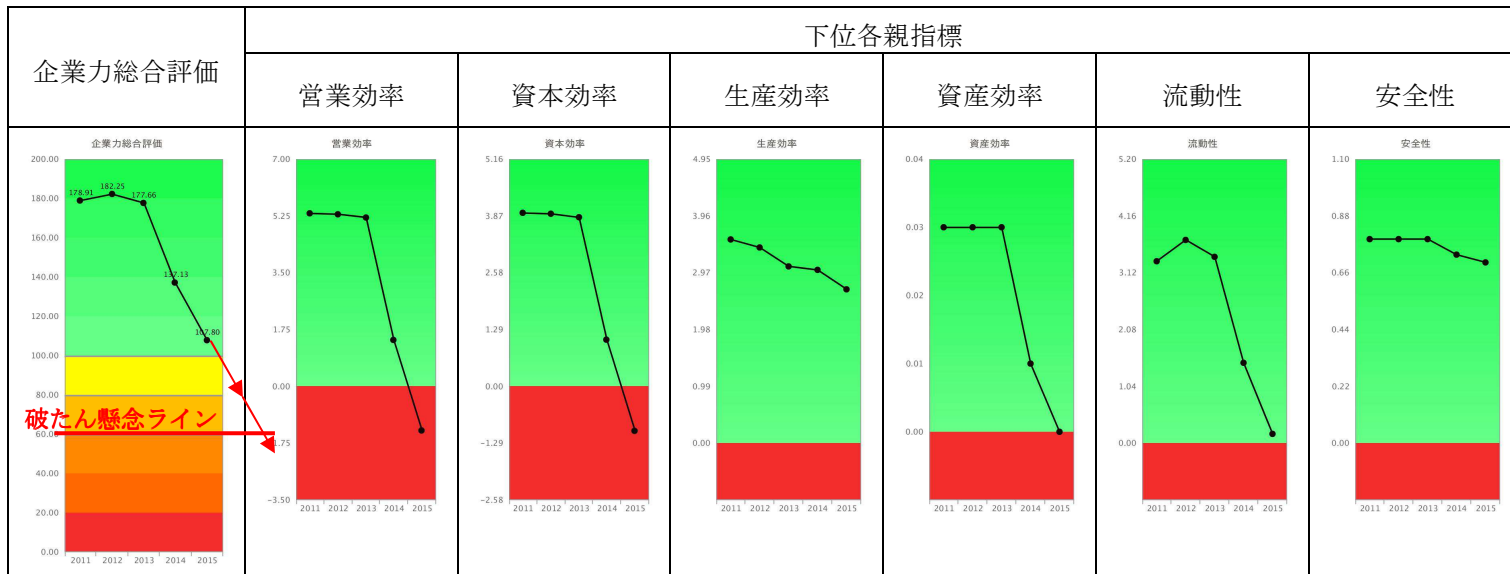


今回は、アイスクリームチェーンのB-R サーティワンアイスクリーム株式会社を分析してみました。お出かけした時に頂くポップなアイスクリームとして定評がありますが、ハーゲンダッツや、コンビニなど、他業態の躍進があり、経営状況が気になります。

2011～2015年12月期までの5年を分析してみました。



企業力総合評価は、178.91P→182.25P→177.66P→137.13P→107.80Pと推移しています。2015年12月には、前年に比し29.33P悪化して107.80Pとなり、破たん懸念の60Pまであと47.80Pしかありません。もし同じトレンドで悪化したらあと2年(47.80P÷29.33P=2)で破たん懸念に達する危機的状況です。2014年2015年の企業力総合評価の悪化は、悪化トレンドの下位各親指標を原因としますが、すべての親指標が悪化トレンドであると確認できます。

下位各親指標は3つのグループに分けて捉えることができます。営業効率と資本効率、生産効率と資産効率、流動性と安全性です。

営業効率と資本効率(①グループ)は、それぞれ利益と売上の比率、利益と資本の比率を意味し、儲かるかという尺度です。このグループは2つとも急落し赤信号領域に突入していますから、企業力悪化に大きなインパクトを与えていると考えられます。

生産効率と資産効率(②グループ)は、それぞれ人の活用、モノの活用を売上高等で測った指標を意味し、管理の尺度です。このグループは、生産効率が4期連続悪化、資産効率が2014年12月期から悪化しています。このグループは、儲かるかの①グループとはある程度独立して管理できる指標です。

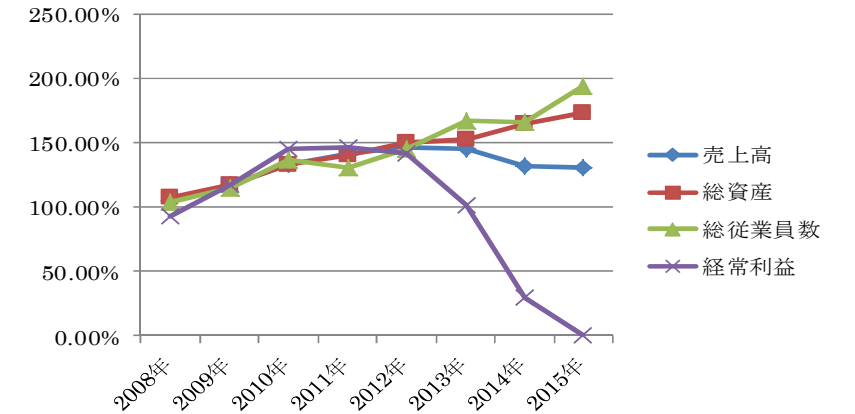
流動性と安全性(③グループ)は、それぞれ短期資金繰り指標、長期資金繰り指標を意味し、資金繰りの尺度です。このグループは、流動性の急落と安全性の緩やかな悪化です。このグループは①グループとは独立して管理でき、②グループとも関連があるもののある程度独立した管理ができます。

B-R サーティワンアイスクリーム(株)の過去5年の経営状況の推移は、営業効率の急激な悪化をカバーすることなく、全ての指標を悪化したという特徴があります。そしてグループの独立性から、補完関係

を期待できたにも関わらず、それが出来なかったことが分かります。

下記は、売上高、総資産、総従業員数、経常利益の2007年度比を2008～2015年分をグラフ化しました。ある年度を基準にした年度比は、それ以降の動きの同調性を確認するのに役立ちます。

2012年までは大まかに一致しています。実はこの4指標は普通、連動します。売上が上がれば従業員も増え、総資産も増加して利益も増加するという、通常の循環が起こるからです。



2013年神戸三木工場の用地を取得し、2014～2015年にかけて工場を建設したため、総資産は増加し、従業員も増加しましたが、売上が減少し、費用がかさみ、経常利益が大きく減少してしまいました。

つまり、①グループは、設備投資でコスト高になったところへ大きな減収となり、悪化しました。

②グループは、工場建設で従業員数が増え、総資産が増加したのに減収となり悪化しました。

③グループは、自己資金で神戸三木工場投資を行った為、流動性の急落などが引き起こされました。

	2007年	2008年	2009年	2010年
売上高	14,147,348	14,859,853	16,659,796	18,778,371
2011年	20,058,940	20,783,553	20,524,461	18,602,692
2012年				18,561,664

単位:千円

B-R サーティワンアイスクリーム(株)は、「未来」が弱かったのではないのでしょうか。

未来の売上は、自社の過去から現在までの売上分析を基礎にして、外部環境のデータと突合しながら、予測していきます。自社の出店数の推移とショッピングセンター出店数の推移、各都道府県ショッピングセンターの売上の推移と人口推移など、どこか予測しきれなかった故の減収でしょう。更にフランチャイジーの店舗数は1,175店、直営店の店舗数は16店と圧倒的にFC店が多い為、FC店の財産状況や経営成績の把握を怠ると思わぬ閉店、減収に見舞われるでしょう。FC店舗の決算書を徴求するFC本部は多くありますが、経営状況の把握と指導に重点をおく本部企業は多くありません。加えて、FC加盟店募集に際し、需要予測が甘いまま出店させることの信用リスクも注意が必要です。

富士小山工場と神戸三木工場の生産能力はわかりませんが、富士小山工場12,010㎡と神戸三木工場17,629㎡の規模から、生産能力は倍以上になったと推定します。神戸三木工場竣工は、災害や事故等により、何らかの障害が発生した場合に重要な業務が中断しないことを目的にしているのであれば、過剰ともとれるW工場の結論かもしれませんが、自己資金割合を減らせば、流動性の急落は避けることができたでしょう。

### まとめ

**B-R サーティワンアイスクリーム(株)は、需要予測精度を上げること、FCの経営状況を把握・管理すること、設備投資時に自己資金割合を調整すれば、急落は避けられたでしょう。**

**編集後記** 近所のショッピングセンターから大手スーパーが撤退しました。専門店街にあったサーティワンアイスクリームのお店も閉店してしまいました。(´・ω・`) 文責 JY  
〒541-0052 大阪市中央区安土町1-6-19 プロパレス安土町ビル7階D号 株式会社 SPLENDID21  
tel 06-6264-4626 1 fax 06-4964-4164 ✉ [info@sp-21.com](mailto:info@sp-21.com) <http://sp-21.com>